

# (国) 福島大学

行政政策学類

キャリア教養学科 (橘高校出身)

Q. 編入を考えたのは、いつからでしたか？また、その理由を教えてください。

大学受験で第一志望の大学に落ちた時からです。聖母の編入学は高校の担任の先生から教えていただきました。私は当時から福島大学を目指していましたが、浪人して福島大学に入学するほどモチベーションが保てないと判断し、先生が提案してくださった編入学を志望しました。

Q. 編入までのプロセスを具体的に教えてください。ガイダンスはいつ、どのような内容ですか。

一年生の後期から編入向けのキャリアデザインが始まります。そこで、志願理由書の書き方や大学研究、勉強法、先輩方からのアドバイス、小論文対策、面接練習が行われます。同時期には編入学向けの英語に特化した授業が始まります。毎回単語の小テストが実施されるので語彙が身につきます。また、授業で文法の解説をしていただけます。

Q. 実際の学習指導は、いつから、誰にどのような形で指導されましたか。

一年生の前期から編入学を志望する先輩に「地域活動をたくさんしたほうが良い」とアドバイスをいただいていたので、先生が紹介するプロジェクトに積極的に参加していました。この活動を通して自分の将来の方向性がなんとなく見えてくるようになり、先生に相談し、大学の学科の選定や自分の研究テーマなど明確化していきました。

Q. 編入対策で努力したことは何ですか。具体的にどのような勉強をいつからしましたか。

自分のキャリアパスを構築することです。入学当初、私はなりたい職業がありませんでした。そのため、編入に対するモチベーションが一年次の後期から下がり始めていました。11月から1月にかけてキャリア支援センターや先生方によく相談をしていました。自分の将来が定まり始めた春休みあたりから、本格的に志願理由書・英語・小論文の勉強をしました。

Q.聖母の学びで力になったことはどんなことですか。

特に、聖母は授業外の活動が充実しているため、より深い学びを得ることができました。授業を受けているだけでは見えてこない「地域の課題」を自らの経験を通して発見できました。この学び方は高校までの学習法では得られない学びの楽しさがありました。

Q.先生のアドバイスで役に立ったことはどんなことですか。

一番心に残っているのは「メタ認知」の授業です。私は自分の力量に合わせた勉強法を考えるのが不得意でした。そのため、「メタ認知」の授業は、私に勉強方法を変える機会を与えてくれました。

Q.①大学（短大）受験の時の気持ち・②短大入学時（学生生活）の気持ち・③編入試験前の気持ち・④合格した時の気持ちを教えてください。

①第一志望に受かる自信があっただけに落ちたショックが大きかったです。

②ほかの四年制大学の人よりも多くの経験をしようとして積極的に地域活動に参加するよう考えていました。

③勉強を本格的に始めるのが遅かったのもあり、不安が大きかったです。

④感謝の気持ちでいっぱいです。私は特にメンタル面が弱かったので、支えてくれたたくさんの方に心から感謝しています。

Q.これから聖母短大に入学する、または聖母短大から編入を目指す後輩に伝えたいことは何ですか。

聖母の編入学を希望する大半の人が一度大学入試に落ちていると思います。そのため「大学へのリベンジ」と考える人がいるでしょう。しかし、編入学ではなぜその大学・学科にこだわるかを追求します。自分の将来と正面から向き合うことはつらいことかもしれませんが、その分自分が本当にやりたいことを見つけられると思います。

